



Title	大阪癌研究会昭和52年度事業目標
Author(s)	田口, 鐵男
Citation	癌と人. 1977, 5, p. 3-3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24175
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪癌研究会昭和52年度事業目標

常任理事 田 口 鐵 男*

大阪癌研究会の基本的事業として、癌に関する学術研究の奨励助成、癌制圧、癌知識の普及に努力しなければならない。しかし、残念ながら資金不足のためどうしても研究会の活動はにぶりがちであることを認めざるをえない。

昨年度理事会、評議員会で承認いただいたように集団検診やガン相談事業の有料化によって事業収入をあげ、研究会活動をさかんにしてゆきたいと考えている。

そこで、本年夏までに大阪市淡路町に当研究会の大阪事業所を開設し、①ガン相談、②乳ガンの集団検診、③直腸癌の集団検診、④その他関連事業の拠点とする予定である。これは当研究会賛助会員大塚グループの並々ならぬご援助と大阪商工会議所の御後援によるものである。

とくに乳ガンと直腸ガンを手始めにとりあげたのは、胃ガン、子宮ガン、肺ガンに関してはすでに多くの集検施設があり活動している。近年著しく増加傾向にある乳ガン、直腸ガンを研究的に阪大微研病院外科とタイアップしてやってゆこうとするものである。

この計画に対しては日本対ガン協会大阪支部も全面的に協力してくださることになっている。大阪事業所を中心に施設ならびに出張検診を行ない乳ガン、直腸ガンの早期発見につとめたいと考えている。

また、ガン相談室を開設し、ガン知識の普及、正しいガイドによって多くの人に幸せをもたらしたい。

また、『癌と人』、『乳ガンの自己検査法』などの発刊配布などに努力する所存である。

とくに今年度から賛助会員を増やすことに努力しなければならないが、やはり会員には癌検診を定額料金より安くしてあげるようなシステムをつくりあげてゆきたい。

社会状勢はかなりきびしいだけに国民の健康が何より大切であり、がんの制圧のため研究会は心をあらたに頑張りたい。

* 大阪大学教授（大阪大学微生物病研究所附属病院外科）